

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	12.9(木)	城東	発言者A	単学級の学年が増加しているということだが、それぞれを2クラスに割ればよいのではないか。特に低学年では、教員の目が行き届いていない。	現在の国における学級編制基準は、小学2年生までが35人学級編制であり、今後順次拡充する中で、令和7年度には小学校全学年が35人学級編制となる。今後、岸和田市においても国の基準に基づき、学級を編制していく。 なお、今回の適正規模・適正配置の取組は、学級あたりの児童生徒数である「学級規模」ではなく、学校全体の児童生徒数である「学校規模」について、一定の規模を確保しようというものである。
2	12.9(木)	城東	発言者B	この計画は、いつから検討されていたものなのか。	学校の適正規模・適正配置については、平成29年度の総合教育会議において議題に挙がり、その後議論を重ねてきたところ。また、審議会における、適正な学校規模についての議論及び答申や、教員、児童生徒、保護者を対象としたアンケート調査も踏まえ、令和2年3月に「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」を策定した。 その基本方針を基に、市民の皆様からいただいたご意見も踏まえて策定したものが、今回お示ししている実施計画（案）である。
3	12.9(木)	城東	発言者B	この計画は、決定事項なのか。	今回お示ししている実施計画（案）は、あくまでもたたき台である。この地域説明会も、決定事項を報告するための説明会ではなく、計画（案）を周知するために開催しているものである。
4	12.9(木)	城東	発言者B	統合がない可能性もあるということか。	教育委員会としては、学校の小規模化による課題を放置するのではなく、現時点から取組を進め、子どもたちにとってより良い教育環境の整備と学校教育の充実を図る必要があると認識している。 説明会終了後、皆様からいただいたご意見を取りまとめ、それらに対する教育委員会の考え方を含めて市ホームページで公開していく。 それ以降も、地域や保護者の皆様と協議を重ねていくが、ご意見やご要望は様々あることから、課題を一つずつ解消していきたいと考えている。いただいたご意見の中で、より子どもたちの教育に資するものがあれば、教育委員会でも検討の上、計画（案）に取り入れることも検討している。 目標は、地域や保護者の皆様と合意に至ることだが、仮に平行線となった場合には、市長と教育長が判断した上で、市議会へ教育委員会の考え方、地域や保護者の皆様のご意見の双方を示し、判断を仰ぐことになる。
5	12.9(木)	城東	発言者A	小中一貫教育は誰が望んでいるのか。	これまでも小・中学校の連携教育に取り組んでおり、例えば小・中学校の教員間での情報共有、合同勉強会や、小学生が中学校に、中学生が小学校へ訪問するといったことを実施している。誰が望んでいるというよりは、既に行われている小中連携の取組から、各中学校区で「めざす子ども像」を定め、一つの目標に進んでいく形で小中一貫教育に発展させていく方針である。

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
6	12.9(木)	城東	発言者A	<p>小・中学校を同じ校舎にする必要はないのではないか。 グラウンドが狭くなるし、小学校低学年と中学生の身体の大きさが違うことや、チャイムを鳴らす時間が異なるといった問題が出てくる。</p>	<p>小中一貫教育については、すべての中学校区で導入するものであり、現状のように、小・中学校が分離している状況においても取り組んでいく。</p> <p>仮に、施設一体型や隣接型の小中一貫校が設置された場合は、その形態に合った小中一貫教育を行っていく。</p> <p>なお、小中一貫教育に取り組む上では、小・中学校が分かれているよりも、施設一体型、もしくは隣接型の方が、教員や児童生徒の交流を図る上で望ましいものだと認識している。例えば、現在も教員の相互乗り入れ指導を行っているが、移動の時間が短くなれば、より効率的に実施できるということが挙げられる。</p> <p>一方、市内の小・中学校の状況を見ると、施設一体型での整備が物理的に困難な校区も存在するが、その場合においても、小中一貫教育は実施していく。</p> <p>なお、（仮称）山直小学校が設置された場合、隣接する山直中学校と、施設隣接型の小中一貫教育を行うこととなる。</p>
7	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまでの議論を踏まえ、教育長は性善説で物事を見ているように感じている。例えば、青少年指導員協議会の会報に、教育長が「成人式でも、祭礼でも、深夜でも早朝でも、いつも献身的に活動しておられる青指協の皆様から感謝申し上げます」というメッセージを寄せているが、青指協に何をするという定義はない一方で報酬が出ている。幽霊部員問題も懸念されることも理解しているはず。もっとニュートラルな目で見ていく必要があると感じている。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	12.9(木)	城東	発言者C	<p>先ほど、適正規模・適正配置の取組に係る議論は2017年から行っているという回答があった。これは事実であるが、事実の一端でしかない。</p> <p>現市長就任後の総合教育会議において、適正化の取組については、市長の強い意志によって進めるといようなことが言われるようになる。2018年11月に行われた第4回総合教育会議では、教育大綱（案）について、学校統廃合については「推進」ではなく「取り組みます」という文言が望ましいという意見を4/6の委員が出していたのに、実際に策定された教育大綱においては、「推進」という文言になっている。この間の議論はまったく不透明である。</p> <p>今回の実施計画（案）についても、案を策定するまでの議論については不透明である。このことは、議会で質疑もなされていたところ。</p> <p>この点については、行政の意思形成過程を明らかにすることが不適当なこともある旨を回答され、一般的にはそうであろうと思われるが、市長の諮問機関である審議会においても、会長が「適正規模の考え方については標準的な目安を示したものであり、適正配置については現時点で考えられる方策を示したもの」「保護者、地域住民、ならびに町会等地域関係組織に丁寧な説明を行い、理解を得たうえで、地域と学校が両輪となって進めていくべきということと言うまでもない」「児童生徒の意見を十分に聞く機会を設けることも重要」と発言している。</p> <p>今回の計画（案）では、このような点で大きな部分が変化している。ここについて、行政が捻じ曲げられる部分がどこかにあったのではないかと、と疑念を抱かれても仕方がないところ。</p> <p>このような計画（案）の策定過程については、一般的なものだといった説明であったと記憶するが、仮にそうであるならば、例示を求める。入札のようなものであっても、結果が出れば、その過程は一定の公開がなされるもの。</p> <p>全国でもトップクラスに情報公開が進んでいる大阪府から来た教育長に、その知恵を発揮してもらうことが、着任の意味の一つだと考える。</p>	<p>当時の総合教育会議において、委員6名のうち4名が反対していたということは事実だと捉えているが、その後、議論を進める中で、総合教育会議においても意見を一致させ、今回の実施計画（案）をお示しするに至っている。</p> <p>計画（案）の形成過程について、まず審議会の答申やアンケート調査の結果等を踏まえて基本方針を策定・公表し、ベースとなる考え方を固めた上で、校区ごとに落とし込み、今回の計画（案）をまとめている。</p> <p>計画（案）については、教育委員会が責任を持って市民の皆様にお示しすべきと考えていることから、その旨を議会に説明し、理解を得てきたところ。</p>
9	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまでの説明会において、裕福な自治体と、そうでない自治体間での教育機会均等がなされるべきであり、少人数学級については国に要望しているといった説明があった。</p> <p>そうであるならば、岸和田市も他の自治体と足並みをそろえているのかといえば、実際は天神山小学校における幼小連携のように、他市から視察を受けるような先進的な取組も行っている。</p> <p>ICT教育においても、学校間で進行具合が異なるという、学校格差がある。機会均等についての説明と矛盾しているのではないかと。</p>	<p>憲法でも、教育基本法でも、子どもたちはその能力に応じて等しく教育を受ける権利を有しているとされており、教育委員会はその機会均等を保障する義務がある。</p> <p>財政的に余裕があるので独自の少人数学級が可能、余裕がないので不可能といったことは、市町村レベルで負の連鎖をもたらすものではないかということで、基本的には望ましいことではないという見解を述べてきた。</p> <p>なお、市内の学校においては、課題のある学校には教員加配を行っているが、これは教育の根幹に関わる学級編制とは異なる次元にあると認識している。</p>
10	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまで述べられてきた、行政の「裁量権」について、その判断基準について尋ねる。</p>	<p>行政は、様々な情報や市民意見を基に、公平中立の立場から判断を行う義務と権利があるため、これを総称して「裁量権」と申し上げた。</p> <p>例えば、あまりにも市民意見と逸脱していたり、公権力の横暴な行使がなされている場合には、権利濫用ということで無効になるが、基本的には裁量権が認められていると認識している。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
11	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまでに開催された説明会において、優等生であっても不登校になり得る、所謂「浮きこぼれ」について紹介してきた。</p> <p>不登校については、不登校経験者の中に、国内外において社会的に成功した方もいる中、多様な教育について、アメリカにおいてはホームスクールを制度化している。オランダにおけるイエナプラン教育、マイプラン学習についても、日本の公立校で取り入れられている。また、OECDやEUにおいては学級規模の少人数化が進んでいる。</p> <p>このような国内外の先進事例について、どのような調査研究を行ってきたのか。</p>	<p>現在、国内外の様々なステージで活躍されている方が、不登校経験者だったという話についてはニュース等で拝見している。</p> <p>また、諸外国の中には、家庭での教育を制度化し、学習を保障している事例があることも認識している。</p> <p>日本や岸和田市の教育が、それらの先進事例に追いついていない状況にあると言われればそうかもしれないが、岸和田市においては、不安を持つ子どもたちが通うことのできる適応指導教室を設けており、学習保障に取り組んできたところ。</p> <p>不登校の子どもが、ICT機器を活用した学習や対話を通じ、学校へ通学できるようになったという事例もある。提示いただいた事例も踏まえながら、岸和田市の子どもたちが楽しく学校へ通えるような施策を検討していきたい。</p>
12	12.9(木)	城東	発言者B	<p>小中一貫教育や教育の充実といったことを述べられているが、城東小学校のように学年1クラスしかない場合はできないのか。学校が統合しないとできないものかどうかという点に疑問がある。</p>	<p>学年1クラスといった小規模校においても、小規模が故の良さがあることは認識している。</p> <p>一方、クラス替えができないことや、学校行事に制約が生じること等の課題があることも事実。</p> <p>子どもたちにとってより良い教育環境の整備と、学校教育の充実を図る上では、現時点から、適正規模・適正配置の取組に着手する必要があると認識している。</p>
13	12.9(木)	城東	発言者B	<p>現在の在校生や保護者に意見を聞いて、そこからのたたき台であるべきではないか。</p>	<p>実施計画（案）の策定に先立ち、令和2年3月に基本方針を策定している。基本方針の策定にあたっては審議会を設置し、PTAの代表や町会の代表にも参画いただき、議論を重ねてきた。また、児童生徒や保護者、教員を対象にしたアンケート調査においても、12～18学級が望ましいという意見が多数であった。</p> <p>さらに、基本方針策定後も説明会を開催し、そこでいただいたご意見も踏まえ、実施計画（案）の策定に至っている。</p>
14	12.9(木)	城東	発言者D	<p>幼保再編を含め、非常に急な話であり、また、5年後に学校がなくなるということ聞き、コロナ禍においてとてもタイトな期限だと感じている。</p> <p>以前にパブリックコメントも実施されていたが、当時は学校が休校となっており、情報が回っていない中で実施されたもの。意見を適切に吸い上げた上で、たたき台としての計画（案）が策定されたのか疑問に思う。</p>	<p>（仮称）学校開校準備委員会を設置してから5年程度で新たな学校を開校する想定だが、準備委員会設置までは、それぞれの校区において協議を重ね、適正化に係る課題や、地域・保護者の皆様が抱えている不安を解決していきたい。</p> <p>その後、一定の合意に至ることができれば、（仮称）学校開校準備委員会を設置することになるため、5年後に必ず学校がなくなるといった期限を設けているわけではない。</p> <p>ただし、学校の小規模化が進行する現状を踏まえると、できるだけ早期に適正化を進め、子どもたちの教育環境を整えていきたいと考えている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
15	12.9(木)	城東	発言者D	<p>城東小学校と山直北小学校はさほど離れていないかもしれないが、3校区が統合されれば校区は非常に拡大する。通学に際しても、大きな道路を横断しなければならない。</p> <p>我が家は和泉市との境目付近に位置するため、現状でも通学に30分ほどかかっている。天候の悪い日もあるので、小学校低学年の足ではそれ以上かかる。この取組が、本当に子どもにとって適正なものなのか、もっと議論すべきことだと思う。</p> <p>スクールバスの導入を示唆しているが、子どもが体調を崩すこともあり、泣いて帰ってくることもある。帰り道での寄り道で学ぶこともある。それらを踏まえ、スクールバスの導入が子どもにとって本当に正しいことなのかという点にも疑問がある。</p>	【ご意見として承る】
16	12.9(木)	城東	発言者D	<p>確かに子どもの数がピーク時から半減している中で、新たな枠組みが必要なことは理解するが、適正規模を上回るような大規模校をつくるということが理解しがたい。</p> <p>以前と違い、インクルーシブ教育が謳われる中、学校には様々な課題を抱えた子どもが多くいる。教員も苦労していると思う。学校の規模を拡大しても、きめ細かな指導が可能なか不安。</p>	【ご意見として承る】
17	12.9(木)	城東	発言者D	<p>小中一貫校において、小中一貫教育を行う上での利便性が高く、教育が進むといった説明があったが、それは誰の視点なのか。発達面でステージの違う子どもたちが同じ敷地に集まることで、思春期を迎えた中学生の問題行動を見て、心理的なダメージを受ける可能性もあるだろうし、引きずられてしまう懸念もある。</p> <p>小中一貫教育には、系統性や連続性に配慮した指導等、良いこともあると思う。一方、私立校であれば上手くいく部分もあるだろうが、岸和田市の公立校では難しい部分もたくさんあるのではないかと思う。</p>	<p>小学生が、中学生の問題行動に影響を受ける懸念については、現時点でも課題だと捉えており、今回の取組に関わらず、対応していく必要がある事象だと考えている。中学生が、年少者の良き見本となれるように取り組んでいく。</p> <p>なお、小中一貫校の先進事例を視察した際に、仰られたような心配ごとについても尋ねたところ、当初の心配よりもむしろ、中学生が小学校低学年に対して面倒見良く接していることや、中学生が良き手本となるなど、好ましい環境が構築されていると伺っている。</p>
18	12.9(木)	城東	発言者D	<p>準備委員会の構成後に5年を目処に適正化を実施、とあったが、メンバー等、どのような基準で構成することを考えているのか教えてほしい。</p>	<p>準備委員会のメンバー構成は現時点で決定していない。地域や保護者の皆様のご意見を伺いながら、メンバー構成について決定していきたい。</p> <p>なお、現状の想定では、PTA代表、町会代表といった方に参画いただくことを考えている。</p>
19	12.9(木)	城東	発言者E	<p>小中一貫校においては、小・中学校の授業時間が異なるため、チャイムを鳴らすときに課題があることや、中学生の定期テスト中に、小学生は静かにしておかなければならないこと、外で遊べないこと等の課題があると聞く。</p> <p>現時点でも小中連携の取組を行っているのであれば、それでいいのではないか。教員相互の乗り入れは現在も行っているし、「新たな科」の導入はしなくとも、各校で取り組んでいることもあると思う。</p>	<p>小中一貫校において、仰るような課題があることは認識しているが、先行事例では課題解消に向けた取組もなされているため、それらを研究しながら、子どもたちに負担のないように取り組んでいきたい。</p> <p>なお、小中一貫教育については、施設一体型小中一貫校だけで実施するのではなく、市全域で導入する取組である。小・中学校間での連携については以前から取り組んできており、教育上重要なことだと認識している。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
20	12.9(木)	城東	発言者E	<p>城東小学校は各学年1クラスだが、運動会や音楽会といった学校行事も工夫しながら上手く開催されている。山直北小学校では、人数が多いので、コロナ禍においては制約が生じていることも聞く。小規模だが、今の時代に合った学校ではないか。</p> <p>ただ、学年1クラスであれば、教員は大変だと思う。そこについては市独自での加配もされているようなので、そのような手当てを進めてほしい。</p>	【ご意見として承る】
21	12.9(木)	城東	発言者F	<p>資料には、小規模校の問題点ばかりが列挙されている。質問への回答には、小規模校にも良いところがあると述べていたが、そのことも資料に記載すべきではないか。</p> <p>逆に、小規模校にはない、大規模校特有の問題点もあると思う。それらをすべて列挙した上で、説明会を開催してほしい。</p>	<p>計画（案）をお示しする前段階で策定した基本方針においては、小規模校・大規模校それぞれの利点と課題について記載している。ホームページにも掲載しているので、ご覧いただければ幸い。</p>
22	12.9(木)	城東	発言者F	<p>小中一貫校のイメージがつきにくい。視察へ行った際に良いところを聞いてきたということだが、具体的にどこの自治体の、どの学校を視察したのか教えてほしい。</p> <p>具体的な小中一貫校のイメージを示してもらえれば、説明を聞く側としてもイメージしやすくなる。</p>	<p>具体的には、和泉市の南松尾はつが野学園、羽曳野市のはびきの殖生学園、兵庫県姫路市の白鷺小中学校を視察した。</p> <p>視察先では、先ほど申し上げたようなメリットの他、同じ環境のもと、小学1年生から中学3年生まで、9年間を通して学校全体の教員がみていけるというメリットも伺ったところ。また、ハード面でも、階段の仕様を小学校低学年向けに統一するといった工夫について伺った。</p>
23	12.9(木)	城東	発言者F	<p>小学校は教育の場というだけではなく、地域の交流の場でもある。これは教育委員会だけで考えることではないと思うが、仮に小学校がなくなると、普段活用している老人クラブやスポーツクラブの活動の場を奪ってしまう可能性がある。こうした地域交流の面についても、子どもたちの教育に関わる話だと思うので、尋ねたい。</p>	<p>仮に学校が閉校となった場合の跡地活用については、地域の皆様と議論を重ね、活動場所の確保に際してのサポートを含め、より良い方策を検討していく。</p>
24	12.9(木)	城東	発言者F	<p>今回の説明会は、「こういう風に進めます」といった一方通行の説明会のように感じられるので、今後の協議にあたっては、様々な可能性、住民が考える材料のようなものを提示していただければと思う。</p>	<p>今後の協議に際しては、地域や保護者の皆様が必要とする情報について、適宜提示していきたい。</p>